

「シーガー使って今日も快釣」

今井寿美礼&鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

今井さんの仕掛け

★女性や子ども、初心者にも手軽な東京湾のライトアジ。今井さんが女性目線でおすすめするのは2本バリ仕掛けだ。

「手前マツリを防止するのももちろん、アカクラゲの多いときも除去するのが楽なんです。自製する方はなるべく張りのあるハリスを使ってさばきをよく、たとえばシーガー製品なら張りがある『シーガーエース』がおすすめです」

鈴木さんには今回の空バリ仕掛けについて語ってもらった。

「クラゲの触手が引っ掛かってすぐに取りれるようにと思いつきました。コマセの中にうまく仕掛けを入れれば空バリでも食うんですよ」

確かに手返しは抜群に早かった。鈴木さんの地元、外房大原のイサキも空バリ釣法がメイン、その応用でもあるのだから。驚いたのは空バリにイシモチまでが食ってきたことだ。



▲ベースはシーガーエースを使用
▼食い洗り用にはしなやかなシーガーグランドマックスF Xで



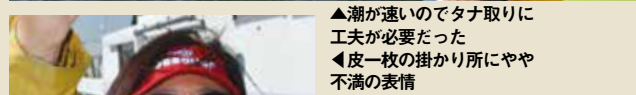
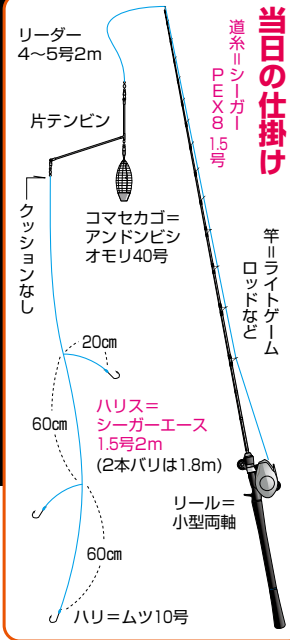
▲鈴木さんの仕掛けは掛け枠に取め、蛍光玉もないシンブルなスタイル

●シーガーエース

●シーガー PE X8 1.5号



●フロロカーボンハリスの定番。0.3〜20号、1.5号は10〜100m巻きまでと豊富なラインアップ
●道糸はもちろんシーガーPEX8、ライトアジには1.5号がおすすめ



▲潮が速いのでタナ取りに工夫が必要だった
▲皮一枚の掛かり所にやや不満の表情



▲予想以上の釣果に同船者も満足そうだった



▲空バリでも多点掛け連発
▼アジとイシモチの一荷も披露



▲メインのゲストはイシモチ、黒川丸の看板魚でもある
▲驚き、2キロ級のヒラメも食ってきた



この方法が正解だったのか、鈴木さんは一荷釣りも含めてどんどん数を重ねていく。目を見張る釣れっぷりに、乗船者も見学に来るほどだった。
中盤からはアカクラゲも少なくなってきた。潮の流れは収まるどころか勢いを増すばかり。アジの食いも徐々に渋くなってきて、しっかりとタナを取って、小さなアタリも見逃さないようにしないとバラシも多くなる。
11時に沖揚がり。17時25センチのアジをトップで36尾、鈴木さんは30尾以上、今井さんも25尾を釣ってお土産は十分。

「船長おすすめのアジ、刺身とフライが楽しみです」と2人も満足した表情で釣り場をあとにした。



★バラシが多いので、いつになく慎重に巻く



★今井さんは終始コンスタントに釣っていた



▲小柴沖水深30メートル前後からスタート

釣れる釣れる釣れる

Challenge #75 東京湾奥金沢八景出船のライトアジ



★東京湾のアジは釣ってよし、食べてよしのベストシーズンだ

鈴木新太郎、今井寿美礼

東京湾のライトアジを楽しむ 釣りよし、味よしの本格的な好期

▼ビシは40号、今井さんはとりあえずエサ付きの3本バリからスタート

●周年釣れる東京湾のライトアジだけど、数が狙えて脂も乗るこれからがベストシーズンといえる。湾内各所から出船しているが、今回鈴木新太郎、今井寿美礼の両氏が乗船したのは東京湾奥金沢八景からの午前便。釣り場まで近いので、短時間でも十分楽しめるのがいい。

久しぶりの好天に恵まれたこの日、乗船した黒川丸の午前船には平日にもかかわらず10名の乗船者が集まった。「やっぱりアジの気持はいいですね」と、外房から駆けつけた鈴木新太郎さんも今さらながら目を丸くする。
今井寿美礼さんと並んで右舷ミヨシに席を構え、7時20分に出船となる。2人が自製した仕掛けは図にあるとおり。シーガーエース1.5号を使用した2〜3本バリである。
10分ほど走って小柴沖の水深30メートル前後の釣り場に到着。前日までの大雨で潮は濁っており、流れも速そう。底から2メートル前後のタナ指示で、さっそく釣り開始となる。
やはり道糸は大きくトモ側に流され、タナ取りに苦労しそう。最初のポイントには不発、小移動してすぐに鈴木さんが船中初のアタリをとらえると、1尾目なので慎重に巻き上げ、20センチのアジを取り込んだ。
船長によるとこの釣り場は20〜25センチの中型主体だが、食べては抜群と大鼓判を押す。そう聞くと鈴木さんは手を休めてもらえない、すぐさま再投入である。
「着底したらすぐに糸フケを取り、タナをあまり上げ過ぎないことです」と鈴木さん。潮の流れで仕掛けが吹き上がらないようなタナ取りが必要なのだ。一方の今井さんも続けて同級を取り込むものの、仕掛けにはアカクラゲの触手が絡んでいる。船中でもポツポツと釣れるようになったが、アカクラゲのせいでもともと手返しが遅い。今井さんは持参のスポンジで手早く除去。そして鈴木さんが取った対策が、アカクラゲ対策に効果的、別項にも紹介した空バリ作戦だった。
この方法が正解だったのか、鈴木さんは一荷釣りも含めてどんどん数を重ねていく。目を見張る釣れっぷりに、乗船者も見学に来るほどだった。
中盤からはアカクラゲも少なくなってきた。潮の流れは収まるどころか勢いを増すばかり。アジの食いも徐々に渋くなってきて、しっかりとタナを取って、小さなアタリも見逃さないようにしないとバラシも多くなる。
11時に沖揚がり。17時25センチのアジをトップで36尾、鈴木さんは30尾以上、今井さんも25尾を釣ってお土産は十分。